

## 令和7年度における教育委員会事務局の主要課題について

令和7年度、教育委員会事務局では、主要課題を以下のとおりとし、これらの課題解決に向け、着実に取組を進めていくこととする。

### 1 全体的課題

令和7年度は、改定した杉並区教育ビジョン 2022 推進計画に基づき取り組みを進めていくとともに、「みんなのしあわせを創る杉並の教育」の実現に向け、現状を踏まえた上で、先を展望した際に生じる課題に対しても着実に対応していく。

特に、令和5年度に区立学校等で発生した重大事故や公益通報により発覚した教育委員会事務局内での不適切な事案等については、昨年度「杉並区教育委員会事務局等における不適切事案等の要因分析及び再発防止対策検討委員会」で検討を重ねてきたところである。

その結果、早期に実施すべき再発防止対策のうち、特に優先度が高い児童・生徒の安全に関わる危機管理対応について、令和7年4月に学校問題対応支援係（愛称：シーダー）を本庁組織として新たに設置し、学校問題に関する相談機能の拡充と学校への支援強化等に取り組んでいく。

また、服務事故等の防止を図るための各種研修の実施のほか、ハラスメント相談体制の周知徹底等により、職員の意識及び危機管理能力の向上を図っていく。

加えて、これらの取組の効果等の検証を行うとともに、教育行政の充実を図るために組織の再構築も視野に入れた検討を引き続き行っていくこととする。

### 2 個別的課題

各課における「令和7年度の主要課題」のとおり

## 令和7年度の主要課題（庶務課）

	<b>いじめ対策等の実施</b>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ いじめ問題対策委員会に新たに置かれる調査部会と専門調査員を活用したいじめ重大事態の調査体制を確立するとともに、いじめ問題対策委員会の役割・体制を整理し、いじめ重大事態の調査以外の機能強化を図る。</li> <li>○ 杉並区いじめの防止等に関する条例の施行に伴い、条例の基本理念等に関する普及啓発を行う。</li> </ul>
2	<b>区立学校への庶務事務システム等の導入の検討</b>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 区立学校に所属する区費職員向け庶務事務システム(11年度導入予定)について、情報システム担当課と継続して検討を行う。</li> <li>○ 7年度中に導入予定の都費教職員等向け経費（旅費）精算システムについて、円滑に導入できるよう準備し運用していく。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保護者負担の学用品費等の経費について、5年度のあり方検討報告及び6年度に役員校長会などと意見交換・整理した課題等に基づき、引き続き検討を行う。</li> <li>○ 学校給食費については、5年10月から公費負担が実施されており、7年度において公会計化を実施する。（学務課所管）</li> </ul>
	<b>教育委員会事務局組織の改編検討</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 組織風土を刷新するとともに、よりよい職場環境を整備し、抜本的な組織改編による教育委員会事務局の体制見直しを以下のとおり行った。7年度は引き続き、他の部署も含めた事務局全体の組織改編を検討する。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育人事・指導課に済美教育センターの事業を一部移管し、教育S A Tの機能を向上させた学校問題対応支援係「愛称：CEDAR」の設置を行った。</li> <li>・庶務課学校I C T係に済美教育センターの事業を移管し学校I C Tに係る組織を統合した。</li> </ul> </li> </ul>

## 令和7年度の主要課題（庶務課 学校ICT担当）

	<b>区立学校校務基盤システムの運用形態の検討</b>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 7年8月末の現行システムの再構築(校務システムと教務システムの統合及びフルクラウド化)完了に向け、新たな校務基盤システムの運用形態について、事業者(5年度にシステム構築プロポーザル実施済)と協議し検討を進める。</li> </ul>
	<b>杉並区立学校情報セキュリティICT推進会議の進行・調整</b>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校におけるICTのさらなる活用策について、杉並区立学校情報セキュリティICT推進会議において検討を行う。 「杉並区立学校情報セキュリティICT推進会議」 委員長 次長 委員 区立小・中校長会代表、庶務課長、学校ICT担当課長 教育人事・指導課長、統括指導主事、済美教育センター所長</li> </ul> <p>検討項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フルクラウド・再構築に伴う諸課題（テレワークの服務上の取り扱いやテレワーク端末持出に伴うセキュリティ基準の改正等）</li> <li>・生成AIの活用方法</li> <li>・区立学校ホームページのあり方 等</li> </ul>
	<b>校務DXの推進</b>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 区長部局及び学校の双方でネットワーク再構築作業が完了することから、教育委員会事務局及び学校において、オンライン会議・ペーパレス手続・ロケーションフリー勤務等の校務DXを実現し、教職員の負担軽減を図る。</li> <li>○ 文部科学省のGIGAスクール構想の下での校務DXチェックリストにおいて、多くの項目を達成できるよう教育委員会事務局及び学校への支援体制を強化する。</li> </ul>
	<b>生成AIの利活用に関するガイドラインの策定</b>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 6年12月26日に文部科学省が初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドラインを策定したことを受け、教育現場における生成AIの利活用の検討を行う。7年度は同省のガイドラインに留意して杉並区版ガイドラインの策定を進める。</li> </ul>

## 令和7年度の主要課題（教育人事・指導課）

	<b>サービス事故防止の徹底</b>
1	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 服務事故防止の徹底に向けて、校長会等における服務事故防止に関する啓発に加えて、都からの教職員の処分公表資料等を学校管理職に機を逸せずに周知する。あわせて、学校での服務事故防止研修の機会を活かして、区内で発生した身近なヒヤリハットも含めた事故事例を教職員一人ひとりに周知することで危機管理意識を高める。</li><li>○ 危機管理意識の向上に資する研修を実施し、学校管理職を始め教職員一人ひとりの周知を徹底し教育委員会内の意識向上や連携を図ることにより服務事故を防止する組織風土を醸成する。</li><li>○ 7年度より人事部門である「教育人事係」と相談部門である「学校問題対応支援係（CEDAR）」が同じ組織になったことを活かして、学校への支援体制を連携し行うことにより、学校に関する問題を初期段階から支援し事故等の未然防止を図る。</li></ul>
2	<b>CEDARの円滑な運営</b> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 学校問題対応支援係（CEDAR）を中心に、いじめ問題の早期解決のほか、学校の諸問題に対する支援体制を充実し、重大事態発生の未然防止を図る。</li></ul>
3	<b>働き方改革の推進</b> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 区内2校に、都の外部コンサルタントを活用した業務改革支援事業を導入し、教員の働き方に関する調査を行う。本事業による業務改革の検証結果を踏まえ、働き方改革を推進するための取り組みを検討する。また、区内他校に取り組み事例を共有することにより効果を波及させる。</li><li>○ 学校向けの庶務事務システムを円滑に導入し、学校における教職員の勤怠管理を適正に行うとともに庶務事務手続きの効率化を図ることにより学校職員の負担を軽減する。</li></ul>
4	<b>区立学校等におけるハラスメントの防止</b> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 区立学校及び区立子供園でのハラスメントについて、実態を把握するための調査を行うとともに、管理職向けの研修を実施することにより、ハラスメントを未然に防止するための風通しの良い学校組織づくりを推進する。</li></ul>

## 令和7年度の主要課題（学務課）

	<b>学校徴収金の公会計化</b>
1	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 学校給食費の公会計化を実施する。</li><li>○ 現在、学校において徴収している教材費等の学校徴収金についても、保護者への利便性向上、経理面での管理・監督体制の充実、透明性の向上及び教職員の業務負担軽減を図るため、区政経営改革推進計画に基づき、公会計化に向けた検討を行う。また、徴収金ごとに公会計化に向けた課題を整理するとともに、徴収管理システムの構築を併せて検討していく。</li></ul>
2	<b>小学6年生移動教室プロポーザルの実施</b>
2	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 小学校6年生移動教室について、令和9度以降の運営受託事業者を公募型プロポーザル方式で選定する。選定に当たっては、安心・安全な移動教室の実施のため、応募事業者の提案内容等を慎重に見極めていく。</li></ul>

## 令和7年度の主要課題（特別支援教育課）

	<b>済美養護学校の教育環境の整備</b>
1	○ 済美養護学校中学部を済美教育センター敷地内に移転するための改修・増築工事、及び引越しや物品購入等を着実に行い、7年9月に確実に開設できるよう準備を進める。また、現在の校舎は小学部として運用するため、特別教室等を復元するなどの必要な改修を行う。
	<b>個別の学び支援システムの活用推進</b>
2	○ 4年度から小学校に段階的に導入を進めてきた個別の学び支援システムが6年度に全校導入となった。本システムの活用により、個別指導計画の内容を充実させ、多様な教育的ニーズに応じた指導・支援を行うとともに、全教員の質の向上、校内の特別支援教育の啓発を推進する。また、切れ目がない支援を推進するため、中学校における導入について検討を行う。
	<b>済美養護学校のセンター的機能の構築</b>
3	○ 杉並区の特別支援教育の理解推進及び区立学校の特別支援教育の専門性向上を目指し、済美養護学校のセンター的機能を構築し、各校を支援するための仕組みづくりについて検討を行う
	<b>特別支援学級の設置・充実に向けた検討</b>
4	○ 知的障害特別支援学級の設置について、特別支援学級に通う児童・生徒数や学級数の推移、通学する児童・生徒の居住地などの実態等を把握しながら、引き続き増設について検討を行う。また、自閉症・情緒障害特別支援学級の設置等についても、他自治体の状況やこれまでの運営状況等を踏まえ検討を行う。

## 令和7年度の主要課題（学校整備課）

### 小・中学校の老朽改築

#### ○ 改築に向けて検討を行う学校

##### ア 杉並第一小学校の改築

引き続き改築検討懇談会を開催し、8月を目途に校舎配置・平面計画などの基本設計をまとめた上で、地域・学校関係者への説明会（まちづくり条例、中高層紛争予防条例に基づく説明会）を行うとともに実施設計を進める。

##### イ 西宮中学校の改築

改築に合わせ、（仮称）コミュニティふらっと宮前と複合化を行う。4月から改築検討懇談会を立ち上げ、8月を目途に改築で目指す学校像等をまとめた改築基本方針を策定するとともに、9～11月頃にプロポーザル方式で設計事業者を選定し設計に着手する。

##### ウ 天沼中学校の改築

改築に合わせ、さざんかステップアップ天沼教室、同荻窪教室を併設する。4月に入札により設計者を決め、年度末まで全9回程度改築検討懇談会を開催し基本設計をまとめる。

##### エ 杉並第六小学校、桃井第一小学校の改築準備

8年度からの設計開始に向けて、改築検討懇談会の設置準備等を行う。

#### ○ 繼続して改築に取り組む学校

##### ア 杉並第二小学校の改築

第2回定例会で工事議案を上程し、環境整備工事に着手する。これまでの遅れ（埋蔵文化財調査及び入札不調）を踏まえ、7年度はⅠ期工事として校庭整備を最優先に行い、8年度に防火水槽の撤去（消防庁施工）や残りの外構工事を行う。

##### イ 富士見丘中学校の改築

2月に新校舎・グラウンド工事を完了し、3月に移転を行う。また、現在使用している北側旧校舎・体育館の解体設計を行う。

##### ウ 中瀬中学校の改築

地中障害や地盤改良等で遅れている新校舎建設工事を1月に完了し、3月に新校舎への移転を行う。

##### エ 神明中学校の改築

6月までに旧校舎解体工事を終え、7月から新校舎建設工事に着手する。

	<h2>長寿命化改修の実施</h2> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 長寿命化改修の実施           <p>実行計画に基づき、築40年の学校を対象に、長寿命化改修工事を実施する（久我山小は4年工事計画の最終年、杉十小は5年工事計画の初年度）。</p> </li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中規模修繕の実施           <p>築20年・60年の学校を対象に、予防保全を含めた施設設備の修繕を実施する。東田中で設計を行うとともに、堀之内小、高井戸中、井荻中、泉南中、桃井第三小、松ノ木中、大宮中で改修工事を実施する。</p> </li> </ul>
3	<h2>学校施設環境の見直し</h2> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 夏の暑さ対策           <ul style="list-style-type: none"> <li>・最上階の普通教室で、屋上・天井断熱や屋上緑化がない教室について、3年計画で天井断熱工事を行う。令和7年度は、その初年度として、昨夏の調査で特に気温が高かった教室5校26教室を対象に実施する（浜田山小、井荻小、杉九小、三谷小、済美小）。</li> <li>・少人数教室、特別支援教室、不登校校内別室指導で、空調機が設置されていない教室について、設置工事に向けた設計を行う（工事は8・9年度を予定）。</li> </ul> </li> <li>○ 校庭の安全対策           <ul style="list-style-type: none"> <li>・一部を除く全校について、秋の運動会シーズン前（8～10月頃）に委託によるレーキ掛けを行い、校庭の安全確保を図る。</li> <li>・6年度の調査で特に釘等が多く見つかった荻窪小、四宮小、高井戸東小の3校について、長寿命化改修等で行う予定だった校庭改修を前倒しして実施する。</li> </ul> </li> <li>○ 人工芝等校庭舗装の検討           <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在校庭舗装は土を原則としており、人工芝は高円寺学園で試行的に導入して以降実績がない。人工芝については、子どもの遊びに適し、怪我の減少や、近隣への砂塵被害防止などでメリットが大きいが、一方でマイクロプラスティックの発生や夏暑くなるなどの課題も指摘されている。土舗装を含め、業界の製品改良動向などを調査研究し、必要に応じて今後の校庭舗装について見直す。</li> </ul> </li> <li>○ プールのあり方検討           <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設整備に係るコストの削減、教職員の負担軽減、夏の暑さ等の課題のある学校プールの今後あり方について、引き続き検討し考え方をまとめる。</li> </ul> </li> </ul>

## 令和7年度の主要課題（学校支援課）

	<b>部活動の地域連携・地域移行</b>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 部活動の地域連携としては、校長の管理下で顧問業務を担う「部活動指導員」、ボランティアとして指導補助を行う「外部指導員」、民間事業者等が技術指導を行う「部活動活性化事業」によるコーチの配置を行うなど、従前の取組を進め、外部人材を活用した部活動改革を推進する。</li> <li>○ 新たに7年度から、富士見丘中では学校支援本部を主体としたスポーツ・文化芸術活動に取り組むとともに、高円寺学園・杉森中・高南中では民間事業者と連携したスポーツクラブを実施し、生徒の放課後等の活動の充実を図る。また、各取組を検証し、8年度以降の他校への実施展開を進めていく。</li> </ul>
2	<b>学校施設の有効活用の推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校施設が地域学校協働活動の拠点となる「学びのプラットフォーム」として安全・安心に活用されるよう、桃井第二小において学校施設管理体制の見直しを行い、地域主体の懇談の場や大人の学習機会を創出していく。 さらに、朝遊びをはじめる杉六小・方南小や中学生の放課後等活動に取り組む富士見丘中における新たな取組成果を、「学校支援本部みらい会議」等を通じて地域学校協働活動推進員や学校支援本部と共有しながら、学校施設における多様な地域学校協働活動の展開を推進していく。</li> <li>○ 放課後等居場所事業を始めた15の小学校で、日曜日・祝日の実施を取り止めていた校庭開放（遊びと憩いの場事業）を、9月以降順次再開していく。</li> <li>○ 学校開放事業における「さざんかねっと」を7校で運用するとともに、少年団体を優先するシステム変更等の課題を整理し、8年度末の利用者団体協議会のない学校への導入拡大を進めていく。</li> </ul>
3	<b>朝の居場所活動の実施</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小学校始業前の朝遊び等の活動を、5月以降準備の整った2校程度で実施するとともに、さらなる拡大に向けた取組を進めるための検討組織を立ち上げ、全校実施に向けた取組を進めていく。</li> </ul>

## 令和7年度の主要課題（生涯学習推進課）

	<b>社会教育士等を効果的に活用した学びの支援等の充実</b>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会教育士の専門知識やスキルを活かして、地域の活性化を図る学習活動を充実させるため、公民連携プラットフォームを活用して地域の社会教育士等の掘り起こしを図り、有資格者を中心とする社会教育人材のネットワーク化を推進する。また、学び合いワークショップやスキルアップ講座を引き続き実施することにより力量形成に取り組み、その上で目標や課題設定等の相談、地域資源の紹介といった伴走支援を行うことで、地域における学びの充実を図る。</li> </ul>
2	<b>歴史的資料のデジタルアーカイブ化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 郷土博物館に収蔵品管理システムを導入し資料のデータ化を進めるとともに、歴史的資料をデジタルデータで保存・公開・活用するデジタルアーカイブ事業の実施に向けた取組を関係課と連携して進める。7年度は、8年3月稼働を目指し、郷土博物館が収蔵する指定文化財等を中心にデータ搭載を行う。その後、複数年度かけてデータ搭載の充実を図る。</li> </ul>
3	<b>杉並らしい特別展・企画展の実施</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 杉並の歴史や文化を踏まえた展示をこれまで行ってきたが、7年度は「昭和100年」「戦後80年」の節目の年であることから、これを踏まえた特別展・企画展を開催する。特別展では、杉並区に録音スタジオがあり幾多の名盤を生み出した「テイチク」を取り上げ、昭和歌謡に関連する資料を展示して、当時の文化や世相を振り返る展示を実施する。</li> </ul>
4	<b>科学教育の推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <sup>イマジナス</sup>I M A G I N U Sでの体験を通じて科学に親しむ区民の裾野がより広がるよう、学校の長期休業期間や休日の利用に加え、平日にも多くの区民の利用を獲得するため、区立学校の利用の促進や広報誌への掲載、ポスター掲示などを通じた幅広い世代への周知に関する側面支援を引き続き行う。</li> <li>○ 区の科学教育については、<sup>イマジナス</sup>I M A G I N U Sとの相乗効果を図るために運営事業者に委託しており、天体観望会は定員の10倍を超える申込みがある企画となっている。7年度の科学教育も引き続き同事業者へ委託し、話題となる天文現象等に合わせた観望会や事業者の専門性を生かした魅力ある出前型の科学教育事業を実施する。</li> </ul>

## 令和7年度の主要課題（済美教育センター）

	<b>教育活動の充実に資する支援策についての検討会等の実施</b>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 外国語に関する学習意欲の向上や体験的な学びの充実に向けた外国語教育の在り方について検討会を立ち上げ、新たな支援策について検討を行う。</li> <li>○ 小学校教科担任制やチーム担任制を導入している小学校の実践について効果検証を行い、全校導入に向けて必要な条件について整理し、東京都教育委員会の動向を注視し検討を進める。</li> <li>○ 済美教育センターの設置目的を見直し、業務整理や機能強化のための検討を進める。</li> </ul>
2	<b>区立学校の教育課程の管理</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各学校の教育活動が一人ひとりの子どもが主体的に学び続ける力を育むものとなるよう、各学校の教育課程実施状況について管理する。そのために、指導主事による学校訪問、学校からの提出書類の確認、授業時数の調査等を行い、必要に応じて管理職への指導及び助言を行う。また、学校評価の改善に向けた検討を進める。</li> <li>○ 各学校の教員が集まる各種主任会等において、外部講師を活用した学ぶ機会の設定及び他校との情報交換の充実により、各学校の取組が一層充実したものになるよう支援を行う。</li> </ul>
3	<b>教員の指導力向上の取組</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 複数の学校について区教育委員会及び東京都教育委員会の研究指定を行い、複数の教育課題について実践的な研究を通して、教員の指導力の向上を図る。また、研究成果について他校に普及する機会を設け実践を広げる。</li> <li>○ 済美教育センター主催研修に加え、学校や個別の教員のニーズに応じて、済美教育センター職員等が訪問し、要望に応じた内容について研修を実施する「訪問型要請研修」の周知に努め、教員の指導力向上につなげる。</li> </ul>

## 令和7年度の主要課題（済美教育センター 教育相談担当）

	<b>学びの多様化学校の設置に向けた検討</b>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 在籍校への復帰が困難である不登校児童・生徒を対象として、その実態に配慮した特別の教育課程に基づき、個々の学習状況に合わせた少人数指導や習熟度別指導等、指導上の工夫をしながら教科等の指導を行う学びの多様化学校（分教室型）の設置を目指した場所の検討を行う。</li> <li>また、地域資源を生かした体験的活動や交流活動等、不登校児童・生徒の実態に応じた教育活動について検討する。</li> </ul>
2	<b>教育相談事業の一体的見直しを図るための検討</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童・生徒や保護者の教育に関する悩みや不登校、いじめ等について、専門的な立場からカウンセリングや助言を行うとともに、関係機関と連携・協働して総合的な相談・支援を行うことを目的として、現状多くの職員が多様な取組に従事している。その取組同士の連携を図り、相互に良さを生かし合うために不登校支援の取組の一体的な見直しを図る。</li> </ul>
3	<b>教育相談体制の充実と情報発信</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 施設の受け入れ状況や曜日により要望どおりに入室できないケースを軽減するため、相談員を増員し相談枠の拡充を図ったり、教育相談室の初回相談までの期間を短縮したりすることで受け入れ体制の充実を図る。</li> <li>○ 教員と専門職が連携する「チーム学校」の一員としてスクールソーシャルワーカーが機能できる学校配置型を目指して、スクールソーシャルワーカーの計画的な採用と配置モデル校の段階的な移行に向けて取り組む。</li> </ul>

## 令和7年度の主要課題（就学前教育支援センター）

	<b>就学前教育の質の向上</b>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 6年度から2年間にわたる下高井戸子供園の教育課題研究（主題：「夢中になって遊ぶ幼児の“時”を意識して～つくって遊ぶ場面から環境構成と援助の理解を深める～」）に続き、令和7年度から高円寺北子供園で2年間の教育課題研究を新たに開始する。区立子供園だけでなく、保育施設を含めた区内就学前教育施設全体でも活用できるよう配慮しながら研究成果の発信を行う。</li> </ul>
2	<b>幼保小連携事業充実に向けた検討及び支援</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文部科学省が推進する「幼保小の架け橋プログラム」を踏まえ、就学前教育施設から小学校への生活や学びがより一層円滑に接続できるよう、「杉並区幼保小接続期カリキュラム・連携プログラム」（ぐんぐん伸びるすぎなみの子）の改定について検討を行う。検討にあたっては、昨年度までの幼保小連携充実研究の成果を生かしつつ、外部講師や各就学前教育施設の代表者を交えた改定検討会を年3回実施する。</li> <li>○ 小学校のスタートカリキュラム充実を図るため、引き続き就学前教育支援センター幼保小連携担当職員によるカリキュラム作成支援を実施する。加えて、幼保小連携研修、幼保小連携担当者連絡協議会の機会も活用しながら、「幼保小架け橋プログラム」の理解を促進し、幼保小連携担当者が新年度のスタートカリキュラムに向けた見直し、改善が着実に進められるよう啓発を行う。</li> </ul>
3	<b>支援の必要な幼児への教育的支援の充実</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 併設の特別支援教育課等と連携しながら、心理専門職による子供園及び私立幼稚園への巡回相談の充実を図る。</li> <li>○ 区内の就学前教育施設を対象とした教育支援相談事業の実施により、引き続き各就学前教育施設における支援の必要な幼児への教育的支援の一層の充実を図る。</li> </ul>

## 令和7年度の主要課題（中央図書館）

	<b>歴史的資料のデジタルアーカイブ化</b>
1	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 平成29年度から進めている図書館の歴史的資料のデジタル化を引き続き実施する。</li><li>○ データを保存・公開・活用するデジタルアーカイブ事業を、郷土博物館や広報課等関連部署と連携しながら、年度内実施に向けて取り組む。</li></ul>
	<b>宮前図書館及び柿木図書館の改築</b>
2	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 12年度から改築工事に着手予定の宮前図書館について、改築基本方針や設計案策定等整備に係る工程を確認するとともに、休館中の臨時窓口設置等の課題を整理する。</li><li>○ 施設マネジメント計画に基づく柿木図書館及び周辺施設の更新等に関する検討に向け、ワークショップ等を開催（7年8月～8年度）し、区民の意見を聞きながら更新方法等の検討を進める。</li></ul>
	<b>I Cタグシステムを利用した図書館サービスの充実</b>
3	<ul style="list-style-type: none"><li>○ I Cタグシステムの導入を円滑に進めるとともに、昨年度全館に設置した自動貸出機の利用状況を踏まえ、貸出時間の短縮による利便性の向上など実施効果について検証する。また、6年度に中央図書館及び高円寺図書館に設置完了した予約資料受取棚の利用状況を確認したうえで他の地域館への設置を検討していく。</li></ul>